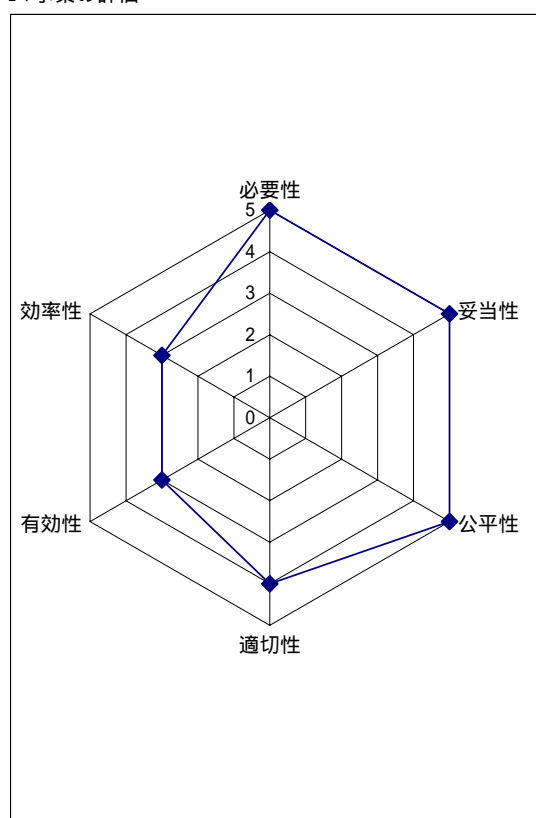


事務事業名	小中学校環境整備事業	担当部局	教育委員会
基本目標	明日を拓く豊かな市民文化と人づくり(教育・文化)	担当課名	学校教育課
施策体系	地域に根ざした学校教育の充実	担当係名	庶務係
施策	学校施設・設備を充実する		

1. 事業内容

事業本来の目的と具体的内容	児童及び生徒たちの安全で快適な教育環境を目指す。		
事業の期間(開始/終了)	平成13年	4月/	年 月
根拠法令、条例、規則など			
事業が対象としている人(モノ)	児童・生徒		
具体的な活動内容	施設の修繕箇所の優先度を調査する。		
	優先度の高い施設を調査する。		
	施設を測量し測量データを基に設計発注する。		
	小規模な修繕箇所を発注し補修する。		
事業の成果	安全に学校生活が出来るようにする。		
	教育環境の改善を図る。		

2. 事業の評価



項目	説明
必要性	5 ますます必要性は高くなっている
	年々、施設が老朽化するにつれメンテナンスの数が増加し、メンテナンス内容も小規模な修繕では対応しきれないものもあり、緊急性も益々あがっている。
妥当性	5 行政以外にはできない事業である
	公立学校のため、行政が関与しなくてはならない。
公平性	5 広い範囲に対して便益を提供しており、偏りは見られない
	結城市内の児童及び生徒を対象とし、特定の学校や団体には隔たっていない。
適切性	4 現在のやり方(手段)が一般的であり、特に問題はない
	やり方は、いろいろな方法があるが、現在の市の財政状況から判断するとなるべくコストをかけないで今の事業を行っているため、特に問題はない。
有効性	3 どちらとも言えない
	施設老朽化により直しても直しても、メンテナンス箇所が増えるため、すべてを完全にすることは不可能である。
効率性	3 どちらとも言えない
	工事費などコスト削減を図っているが、人員は不足している。

総合評価	以前からスクラップアンドビルドの考え方が強く、メンテナンスをかけずにいたため、早期に補修しておけば長持ちした箇所も数多く見られ、老朽化がひどくなっている状態である。これからは日々メンテナンスを行い今の施設をより長く利用できるようにする。
------	--

3. 今後の事業の方向性

所属長判断	事業の方向性判断	短期的方向	維持継続	中長期的方向	維持継続
	説明	施設の老朽化に伴い、修繕箇所は益々増大するが、児童・生徒が安心して学べる教育環境を整備するため、全12校の均衡に配慮しながら、緊急性・危険性の高いものから事業を継続して実施する。			
決定権者判断	決定内容	維持継続			
	説明	学校施設に限らず建築物は必要なメンテナンスを行って始めて耐用年数が確保される。よって最低のメンテナンスは継続事業とする。			